

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第3区分

【発行日】平成28年10月6日(2016.10.6)

【公開番号】特開2016-106319(P2016-106319A)

【公開日】平成28年6月16日(2016.6.16)

【年通号数】公開・登録公報2016-036

【出願番号】特願2016-23867(P2016-23867)

【国際特許分類】

G 06 F 3/0481 (2013.01)

G 06 F 3/0484 (2013.01)

G 06 Q 40/04 (2012.01)

G 06 Q 40/02 (2012.01)

G 06 Q 30/06 (2012.01)

【F I】

G 06 F 3/0481 120

G 06 F 3/0484 120

G 06 Q 40/04

G 06 Q 40/02 180

G 06 Q 30/06 130

【誤訳訂正書】

【提出日】平成28年8月23日(2016.8.23)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

取引可能オブジェクトに関する市場情報を電子取引所から受信する市場情報受信部、市場情報受信部に接続され、電子取引所から受信した市場情報に基づく複数の価格レベルを有する価格軸を取引画面上に表示し、取引可能オブジェクトに関する市場情報を価格軸に対して表示する電子表示部、

電子表示部に接続され、第1のユーザコマンドを受信するユーザ入力デバイス、ここで、第1のユーザコマンドは、電子表示部において、価格軸沿いの複数の価格レベルのうちの第1の価格レベルに対応する位置の上にカーソルをホバーさせるものである、

市場情報受信部、電子表示部およびユーザ入力デバイスに接続された電子プロセッサであって、第1の価格が第1の価格レベルに関連付けられている状態において第1のユーザコマンドが受信されれば、その受信に応じて、第1の価格で注文を設定する電子プロセッサ、ここで、電子プロセッサが、直後に取引可能オブジェクトに関する更新された市場情報を、市場情報受信部を介して電子取引所から受信し、第1の価格レベルに第2の価格が関連付けられても第1の価格での注文を維持する、

電子プロセッサに接続され、ユーザ入力デバイスからの第2のユーザコマンドを受信することに応じて、第1の価格に基づく取引可能オブジェクトに関する注文メッセージを送信する注文ルータ、

を備える、取引デバイス。

【請求項2】

取引画面上の複数の価格レベルのうちのそれぞれの位置は、座標系によって定義される、請求項1に記載の取引デバイス。

【請求項 3】

第 2 のユーザコマンドは、ユーザ入力デバイスの單一アクションに応じて生成される、請求項 1 に記載の取引デバイス。

【請求項 4】

單一アクションは、マウスボタンのシングルクリックあるいはダブルクリックのいずれかを含む、請求項 3 に記載の取引デバイス。

【請求項 5】

価格軸は、取引可能オブジェクトに関する少なくとも 1 つの注文が電子取引所において係属中である価格レベルのみを有する、請求項 1 に記載の取引デバイス。

【請求項 6】

電子表示部は、市場情報受信部を介して受信した市場情報に基づいて、取引可能オブジェクトを買うための少なくとも 1 つの注文を、第 1 のコラムに沿ってかつ当該注文の価格レベルに対して表示し、取引可能オブジェクトを売るための少なくとも 1 つの注文を、第 2 のコラムに沿ってかつ当該注文の価格レベルに対して表示する、請求項 1 に記載の取引デバイス。

【請求項 7】

複数の価格レベルは、取引可能オブジェクトを買う注文および売る注文に対応する価格レベルを单一のコラムに沿って含む、請求項 1 に記載の取引デバイス。

【請求項 8】

複数の価格レベルは、内部市場に対応する価格レベルを含む、請求項 1 に記載の取引デバイス。

【請求項 9】

内部市場は、価格軸に対して指定された位置に表示される、請求項 8 に記載の取引デバイス。

【請求項 10】

複数の価格レベルは、取引可能オブジェクトに関する最終取引価格を含む、請求項 1 に記載の取引デバイス。

【請求項 11】

電子表示部は、取引可能オブジェクトに関する現在の最高のビッド価格を表す最良のビッドインジケータと、取引可能オブジェクトに関する現在の最低のアスク価格を表す最良のアスクインジケータとを表示し、最良のビッドインジケータおよびアスクインジケータは、内部市場が変化したときに静的な価格軸に対して移動可能である、請求項 1 に記載の取引デバイス。

【請求項 12】

電子表示部は、新たな市場情報を受信することに応じて、静的な価格軸を再配置するように取引画面を更新し、内部市場に対応する複数の価格レベルは、価格軸沿いの指定された位置に配置される、請求項 1 に記載の取引デバイス。

【請求項 13】

電子表示部は、ユーザ入力デバイスを介して再配置コマンドを受信することに応じて、静的な価格軸を再配置するように取引画面を更新する、請求項 1 に記載の取引デバイス。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 2

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 2】

図 2 は、コンピュータ画面 1 0 2 上に普通に表示されて、トレーダに市場のオーダーブック情報を示すウィンドウ 2 0 0 を示す。特に、ウィンドウ 2 0 0 は、現在市場に出されている売買注文の合計を示し、そのような注文は、価格カラム（“ P r c ”）に沿った価格に対応する。例えば、最良の付け値は、価格“ 1 4 0 ”で量“ 2 0 ”であって、最良の

言い値は、価格“141”で量“75”である。他の付け値の量および言い値の量も説明のために示されている。さらに、ウィンドウ200に含まれるのは、矢印202の形の画面上のカーソルであり、当然、画面上のカーソルはどのような形をしていてもよい。矢印202はユーザによるポインタデバイスの相対移動により制御される。説明のために、価格“143”を示す価格カラムの一番上から3番目のセルに矢印が位置すると仮定する。図2に示されている典型的な取引アプリケーションおよび取引画面を使用して、一旦、ユーザが、カーソルが“143”的上をホバーしている状態でボタンを押下すると、売り注文が、あらかじめ設定された量と共にロードされ、次に価格“143”で最後の命令が取引所に送信される状態で待機する。他のタイプの取引アプリケーションでは、売り注文も、買い注文と非常に似たボタンの押下により、取引所に送信できる。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0013

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0013】

図3は図2と同じウィンドウ200を示し、インサイドマーケットの価格が上昇するように市場の状態のみが素早く変更される。結果として、一連の価格は、自動的に、ウィンドウ200の中央で現在のインサイドマーケットの一連の価格（例えば最良の言い値が“144”で最良の付け値が“142”である）を維持するように自動的に移動する。ユーザが、市場での急激な変動の間、ポインタデバイスを動かさないと仮定すると、矢印202はウィンドウ上の固定位置に保持され、それは現在、価格“145”的上に置かれる。トレーダが図2に示されている前の市場の状態に反映しているちょうどその間に、トレーダが価格“143”（前にカーソルが位置していた価格）で、トレーダに注文を送信する決心をする。そのようなものとして、トレーダは注文を送信したけれども、画面は、市場の状態の変動を反映するためにちょうど更新されたところである。不幸にもカーソルは“145”的上をホバーしており、代わりに、注文は望まない価格“145”でロードされる。トレーダは価格を間違えた。

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0033

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0033】

ロック508において、動的カーソルコントローラ402は、カーソルが「ホットゾーン（重要な範囲）」に位置するか否かを判断する。ここで言うホットゾーンは取引アプリケーションのプログラマにより決定されるか、または、ユーザにより決定される。図6を参照すると、ホットゾーンは、一連の価格セル“137”から“145”を含んだものであってよく、この場合、トレーダがこれらの一連の価格の1つに対応した位置を選択すると、選択したセルに対応する価格で注文が設定される。セルは一義的に特定される部分であり、例えば、テキスト、数値、または数式が表示される長方形のスペースである。他のホットゾーンは、例えば、付け値の量のセル、または言い値の量のセルを含んでもよい。カーソルが所定のホットゾーン内になければ、カーソル位置を更新するためのアクションは、ロック510において行われない。すなわち、カーソルは有効な取引領域外にある。ホットゾーンの定義には、セルが必要でないことに注意するべきである。ホットゾーンは、任意の形または大きさで定義することができ、グラフィック表示のピクセル（または最も小さなユニット）レベルにまで掘り下げて定義することもできる。